

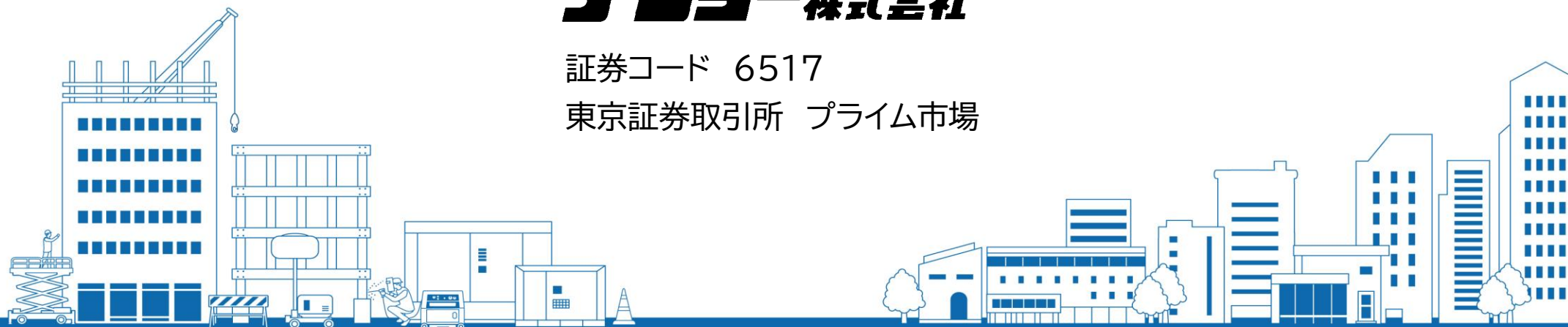


2025年3月期 第3四半期 決算説明資料

デンヨー株式会社

証券コード 6517

東京証券取引所 プライム市場



I. 2025年3月期 第3四半期 決算概要

II. 2025年3月期 通期見通し



I. 2025年3月期 第3四半期 決算概要



ポイント

- ・連結売上高は、主にアメリカ向けの出荷が減少し、前年同期を下回る。
- ・利益は、一部製品の価格改定や収益性の高い製品の出荷増加により、前年同期を上回る。

(単位:百万円)

	2024年3月期 第3四半期		2025年3月期 第3四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
連結売上高	53,351	100%	52,524	100%	△ 827	△ 1.6%
営業利益	3,886	7.3%	5,301	10.1%	1,415	36.4%
経常利益	4,080	7.6%	5,825	11.1%	1,745	42.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,828	5.3%	4,047	7.7%	1,219	43.1%
設備投資	977	—	5,762		4,785	
減価償却費	920	—	917		△ 3	
1株当り四半期純利益	137.02 ^円	—	196.05 ^円		59.03 ^円	
R O E	5.5%	年換算	7.3%	年換算		

概況

1. 発電機は 1,506百万円(3.3%)の減少。
2. 溶接機は 155百万円(4.8%)の増加。
3. コンプレッサは 184百万円(35.2%)の増加。

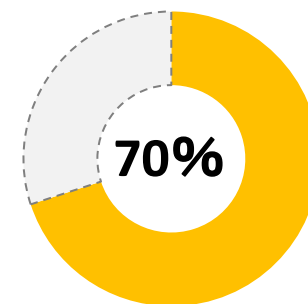
(単位:百万円)

		2024年3月期 第3四半期		2025年3月期 第3四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
連結売上高		53,351	100%	52,524	100%	△ 827	△ 1.6%
製品別	発電機	44,998	84.3%	43,491	82.8%	△ 1,506	△ 3.3%
	溶接機	3,225	6.0%	3,381	6.4%	155	4.8%
	コンプレッサ	523	1.0%	708	1.3%	184	35.2%
	その他	4,604	8.6%	4,943	9.4%	338	7.4%



	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	前年同期比 増減率
発電機	44,998百万円	43,491百万円	△ 3.3%

- 国内は、中・大型の可搬形発電機の出荷が堅調。非常用発電機の出荷も増加。
- 海外は、アメリカ市場が低調に推移。



可搬形エンジン発電機の国内シェア

※当社調べによる(5年平均)



静音発電機
マーリエ



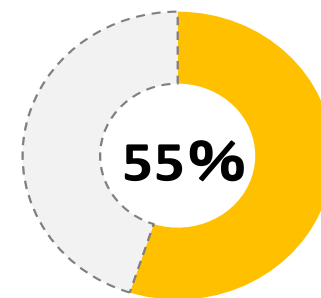
運転データ記録機能付
発電機

1kVAから1100kVA までのエンジン発電機を製造

- 可搬形発電機
建設現場、土木工事、災害復旧・復興などの動力源
- 非常用発電機(定置形)
防災設備やオフィスなどのバックアップ電源
- 電源車など

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	前年同期比 増減率
溶 接 機	3,225百万円	3,381百万円	4.8%

- 海外向け小型溶接機の出荷が増加。



エンジン溶接機の国内シェア
※当社調べによる(5年平均)

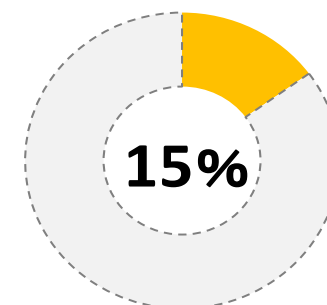
炭酸ガス溶接機

屋外作業の溶接機として当社が日本で初めて開発
 軽量鉄骨溶接用の135Aから重量鉄骨溶接用の500Aエンジン溶接機、
 およびTIG溶接機、炭酸ガス溶接機など

- ビルやマンション、橋梁などの鉄骨構造物の溶接
- 石油備蓄タンク、パイプラインなどの重要構造物の溶接

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	前年同期比 増減率
コンプレッサ	523百万円	708百万円	35.2%

- 国内向けエンジンコンプレッサが増加。



エンジンコンプレッサの国内シェア
※当社調べによる(5年平均)



エンジンコンプレッサ



モータコンプレッサ

- 吐出空気量1.7m³/minから45.3m³/minまで製造
- 道路工事のはつり作業、地盤改良工事
 - 山岳道路の土砂崩れ防止のモルタル吹き付け工事
 - スキー場の人工降雪機用など

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	前年同期比 増減率
その他	4,604百万円	4,943百万円	7.4%

- 国内向けの部品売上が増加。

その他の売上

- 高所作業車
- 負荷試験装置
- 部品売上
- 中古機や仕入商品売上
- 修理売上など



高所作業車

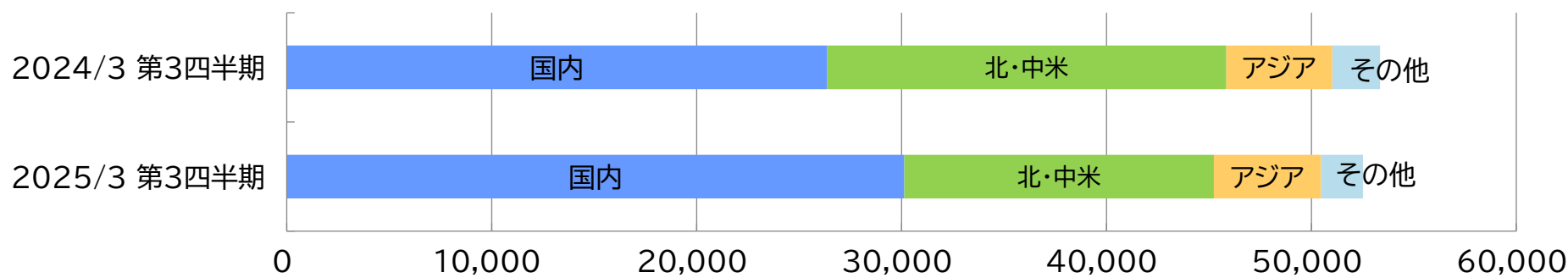


負荷試験装置



(単位:百万円)

		2024年3月期 第3四半期		2025年3月期 第3四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
連結売上高		53,351	100%	52,524	100%	△ 827	△ 1.6%
国内売上高		26,379	49.4%	30,143	57.4%	3,764	14.3%
海外売上高		26,972	50.6%	22,380	42.6%	△ 4,591	△ 17.0%
地域別	アメリカ	19,473	36.5%	15,098	28.7%	△ 4,375	△ 22.5%
	アジア	5,167	9.7%	5,229	10.0%	62	1.2%
	その他	2,331	4.4%	2,053	3.9%	△ 277	△ 11.9%



営業利益増

売上総利益率の上昇により増加

(単位:百万円)

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	前年同期比 増減
営業利益	3,886	5,301	1,415
営業利益率	7.3%	10.1%	2.8 ポイント

	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	前年同期比 増減
売上総利益率	20.1%	24.1%	4.0 ポイント
売上高販管費比率	12.8%	14.0%	1.2 ポイント
売上高営業利益率	7.3%	10.1%	2.8 ポイント

- 売上総利益率は、原価上昇分の一部を販売価格に反映した効果と収益性の高い製品の出荷増加により上昇。
- 売上高販管費比率は、人件費の増加などにより上昇。



Ⅱ. 2025年3月期の見通し



2025年3月期予想～連結損益の見通し

ポイント

- ・期初予想を据え置く。
- ・為替レートは、140円/ドルを想定。

(単位:百万円)

	2024年3月期		2025年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高	73,140	100%	74,000	100%	860	1.2%
営業利益	7,089	9.7%	6,700	9.1%	△ 389	△ 5.5%
経常利益	7,378	10.1%	7,000	9.5%	△ 378	△ 5.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,095	7.0%	4,700	6.4%	△ 395	△ 7.8%
設備投資	1,913		7,050		5,137	
減価償却費	1,228		1,400		172	
1株当り当期純利益	246.83円		227.62円		△ 19.21円	
R O E	7.3%		* 6.5%			
1株当り配当金(円)	64.0円		70.0円			

*自己資本は前期末の金額で計算

概況

- ・国内は、堅調な建設需要を背景に順調に推移するものと予想。
- ・海外は、アメリカ市場向けは、過去2年間急激に増加した反動もあり、減少を予想。

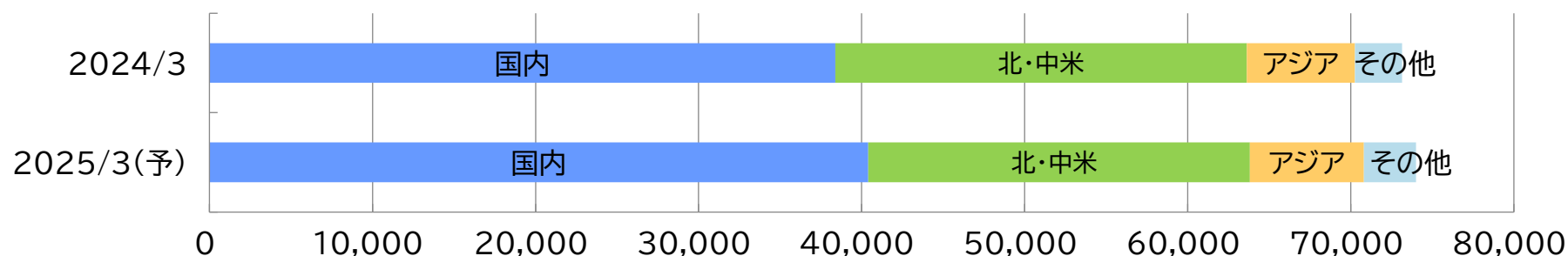
(単位:百万円)

		2024年3月期		2025年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		73,140	100%	74,000	100%	860	1.2%
製品別	発電機	61,487	84.1%	61,700	83.4%	213	0.3%
	溶接機	4,437	6.1%	4,900	6.6%	463	10.4%
	コンプレッサ	693	0.9%	700	0.9%	7	1.0%
	その他	6,521	8.9%	6,700	9.1%	179	2.7%



(単位:百万円)

		2024年3月期		2025年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		73,140	100%	74,000	100%	860	1.2%
国内売上高		38,389	52.5%	40,400	54.6%	2,011	5.2%
海外売上高		34,750	47.5%	33,600	45.4%	△ 1,150	△ 3.3%
地域別	アメリカ	25,230	34.5%	23,400	31.6%	△ 1,830	△ 7.3%
	アジア	6,642	9.1%	7,000	9.5%	358	5.4%
	その他	2,877	3.9%	3,200	4.3%	323	11.2%



営業利益減

経費の増加を見込む。

(単位:百万円)

	2024年3月期	2025年3月期(予)	前期比
営業利益	7,089	6,700	△ 389
営業利益率	9.7%	9.1%	△ 0.6 ポイント

	2024年3月期	2025年3月期(予)	前期比増減
売上総利益率	22.2%	22.0%	△ 0.2 ポイント
売上高販管費比率	12.5%	13.0%	0.5 ポイント
売上高営業利益率	9.7%	9.1%	△ 0.6 ポイント

- ・ 売上総利益率は、労務費や減価償却費の増加もあり、低下を見込む。
- ・ 売上高販管費比率は、人件費や国内物流費などの増加による上昇を見込む。



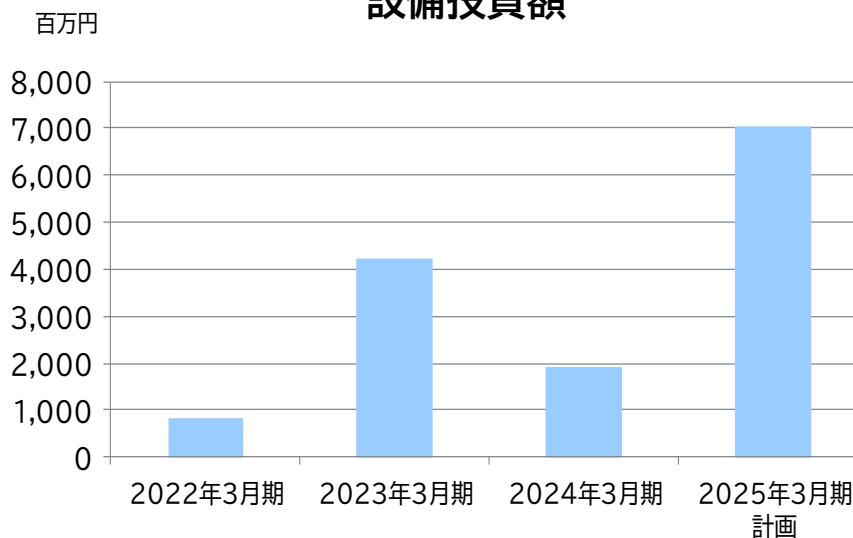
(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 計画
設備費	839	4,213	1,913	7,050
主な用途	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 290 ・ニシハツ 50 ・アメリカ工場 20 ・ベトナム工場 20 ・その他 460 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 360 ・ニシハツ 2,500 ・アメリカ工場 20 ・ベトナム工場 70 ・その他 1,260 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 440 ・ニシハツ 190 ・アメリカ工場 170 ・ベトナム工場 20 ・その他 1,090 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 760 ・ニシハツ 4,160 ・アメリカ工場 100 ・ベトナム工場 200 ・その他 1,830



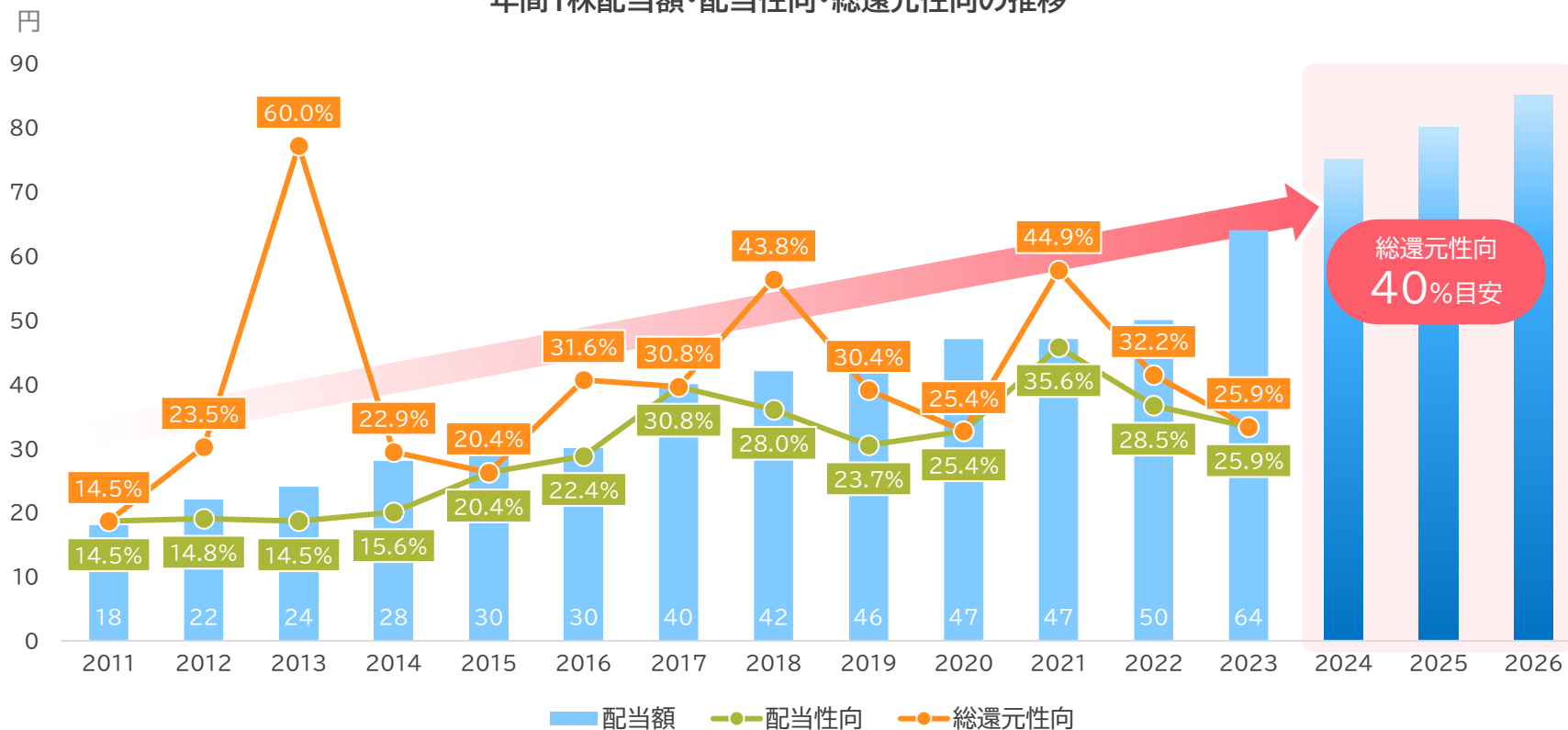
2025年1月に操業を開始したニシハツ新本社工場

設備投資額



- ・収益力の向上と財務体質の強化に努めながら、株主の皆様に対する利益の還元をより充実していくことが重要と認識し、累進配当の継続と機動的な自己株式の取得により、総還元性向40%を目安に成果配分を実施。
- ・この方針の下、業績予想並びに総還元性向を勘案し、1株当たり70円(中間30円、期末40円)を予定。

年間1株配当額・配当性向・総還元性向の推移



2035年度長期ビジョンの達成に向けて、成長投資と経営基盤を強化し、
各分野での施策を着実に実行する

Denyo 2026 取組分野を4つに分類

中核
分野

安定収益を確保する分野

成長
分野

既存市場・製品の延長で成長し、短・中期的な視点で
収益拡大を目指す分野

挑戦
分野

グローバルサウス未開拓市場、新機軸の製品で成長し、
長期的な視点で収益拡大を目指す分野

組織能力
の強化

持続的な成長を支える生産・開発機能、人財、情報
システムの強化を目指す分野

長期ビジョン

2035年度
目標

売上 **1,000** 億円

経常利益 **120** 億円

ROE **8%**

持続的な成長を続け、
次のステージへの収益基盤を構築

国内建設関連市場

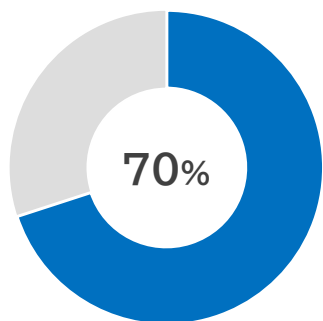
(可搬形発電機、溶接機、コンプレッサ)

国内可搬形エンジン発電機、溶接機といったトップブランド製品を中心に国内シェアを維持向上し、安定収益を確保する

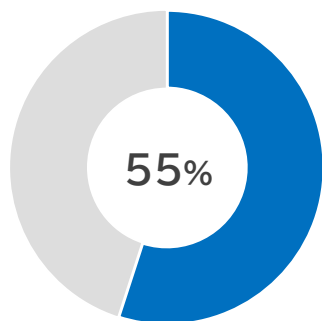
- ✓ 新製品の開発・投入によりシェアアップ・顧客拡大を目指す
- ✓ 教育体制の充実による販売力の強化を図る
- ✓ 東日本、西日本(2025年4月稼働予定)の大型修理拠点を活用し更なるサービス体制の充実を図る

トップシェア

可搬形エンジン発電機の国内シェア



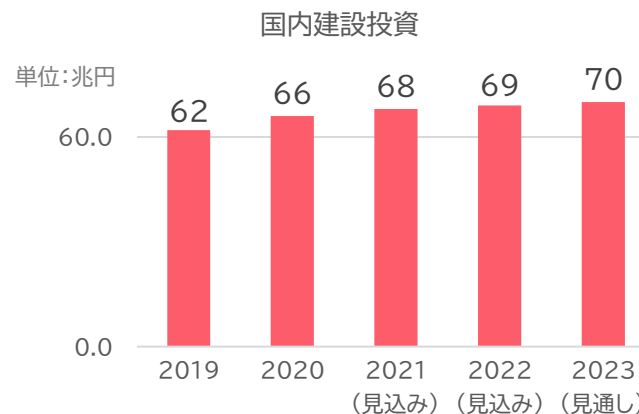
エンジン溶接機の国内シェア



※当社調べによる(5年平均)



国内建設投資



出典:国土交通省「令和5年度建設投資見通し」

安定収益確保



国内定置形発電機市場

非常用発電機を中心にシェア拡大を目指す

生産能力約30%増



ニシハツ新本社工場

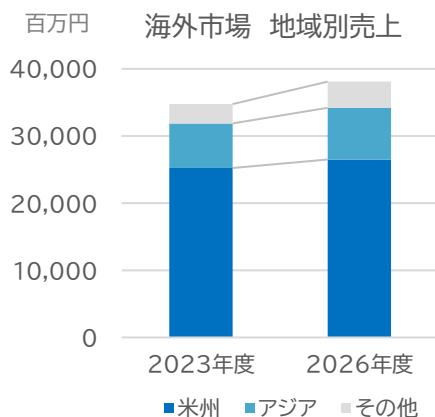


防災用発電機

- ✓ 国内グループ3社による連携強化
- ✓ 防災用発電機を製造・販売するニシハツ新本社工場の投資効果の最大化(2025年1月稼働開始)
- ✓ メンテナンス収益の拡大

海外市場

海外販売網・サービス網を充実・拡大し、Denyoブランドの浸透を図る



- ✓ 既存製品による市場深耕・開拓を進める
- ✓ 新規開発製品による既存市場での拡販・開拓を図る
- ✓ アジア、中近東等の販売店網・サービス網を強化し、新たなニーズに対応



グローバルサウス未開拓市場

成長が期待される未開拓地域への進出



- ✓ 未開拓地域進出に向け調査・検討を実施
- ✓ M&Aを含めた進出先・進出形態の模索

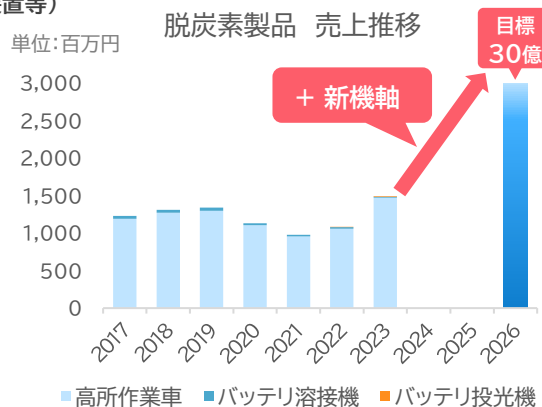
新機軸製品

新機軸製品の社会実装を目指す

(水素混焼発電機、燃料電池式可搬形発電装置等)



水素混焼発電機



- ✓ 新機軸製品の開発継続・推進
- ✓ 営業、サービス、生産体制の準備



開発・生産

安定的に生産できる体制を構築

- ✓ 顧客ニーズにタイムリーに応える製品開発
- ✓ 生産工程の機械化・自動化を進める
- ✓ 製造現場の環境改善、BCP対策を講じる

情報システム

生産性・効率性の向上とセキュリティを両立したシステム構築

- ✓ 基幹システムの改善・構築
- ✓ 情報セキュリティ・BCP対策の強化を進める

人財

多様な人財が活躍できる体制づくり

- ✓ 人財育成プログラムの高度化を図る
- ✓ 老朽化した事務所建替・移転など職場の環境改善を進める



財務目標

- ① 売上高計画 **800**億円
- ② 経常利益 **80**億円 (10.0%)
- ③ ROE **7.0**%
- ④ 総還元性向 **40**%目安

非財務目標

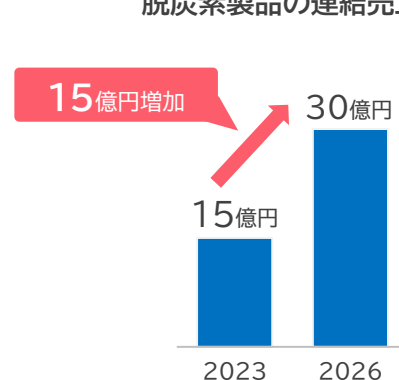
- ① 脱炭素製品売上高 **30**億円
- ② SCOPE1,2(長期目標) **50**%削減※1
- ③ 女性管理職比率(長期目標) **15**%※2

※1 2035年度長期ビジョン目標、国内グループ会社対象、売上高原単位
 ※2 2035年度長期ビジョン目標、デンヨー単体対象

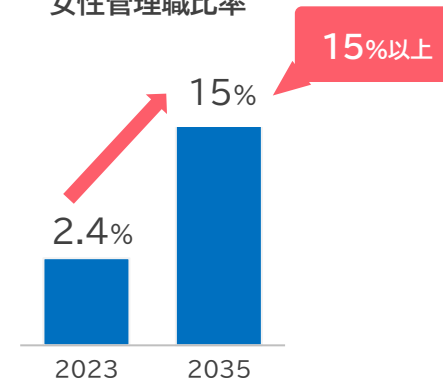
単位:百万円

	2023実績	中期経営計画	
		2026	増減額・率
連結売上高	73,140	80,000	6,860
経常利益	7,378	8,000	622
ROE	7.3%	7.0%	-
総還元性向	25.9%	40.0%	14.1%

脱炭素製品の連結売上



女性管理職比率



この資料には、2025年2月13日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれています。
今後の経済変動、競合状況などにより、実際の業績が予測と大幅に異なる可能性があります。

あくまでも、情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。
投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

当社のIRに関するお問い合わせ先

経営企画室 藤本・後藤
電話：03-6861-1178
FAX:03-6861-1185



参考資料



エンジン発電機、エンジン溶接機など野外パワーソースのトップメーカー

沿革: 1948年7月2日	「日本電機溶接機材株式会社」として設立
1959年	我が国初の高速エンジン溶接機を開発、発売
1961年	エンジン発電機の生産、販売開始
1966年	防音型開発 デンヨー株式会社に社名変更
1983年	東証二部上場
2000年	東証一部上場
2022年	プライム市場に移行

会社規模など(2024/3期・連結ベース)

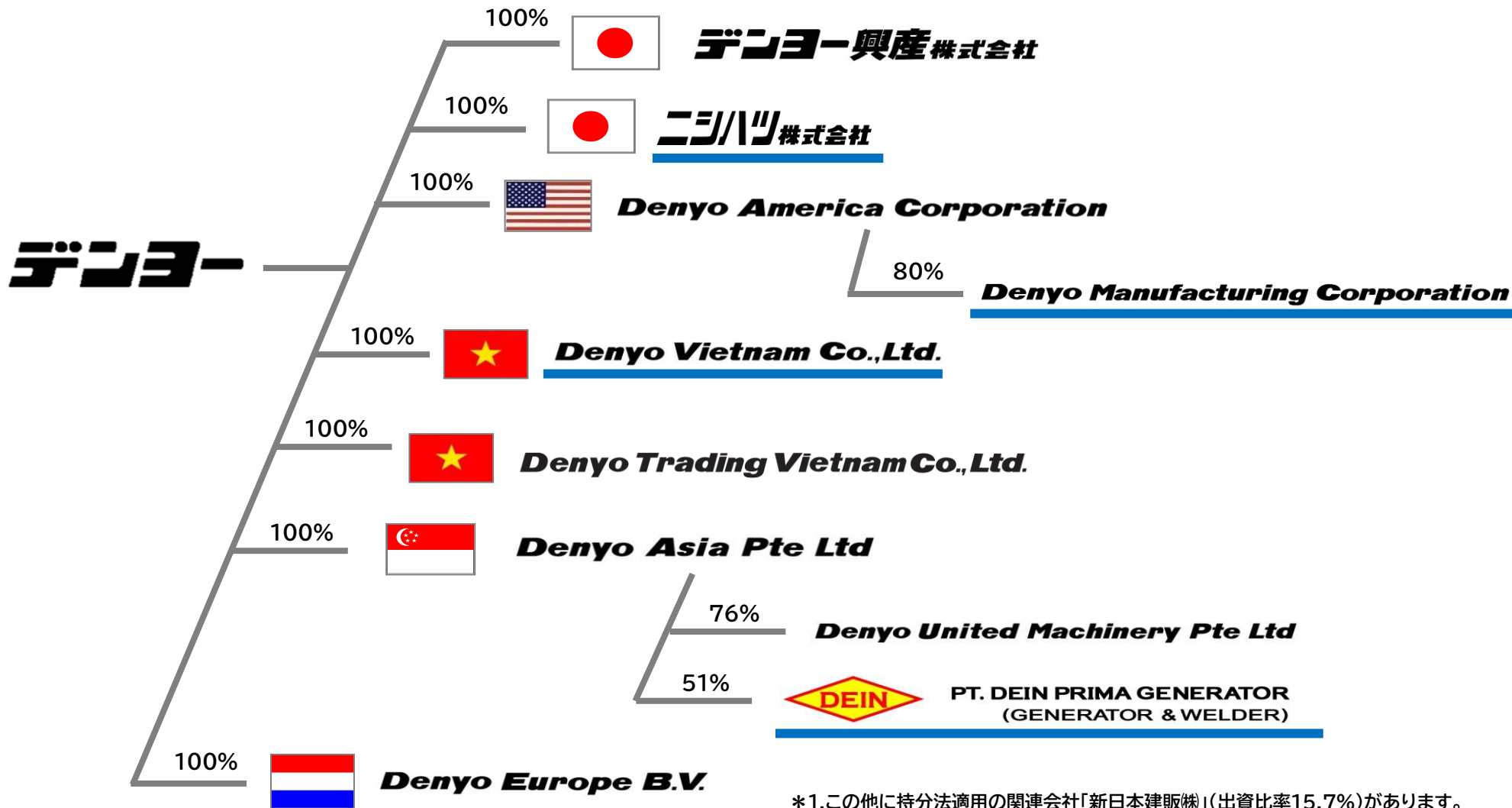
(単位:百万円)

売上高	73,140
うち海外売上高	34,750
経常利益	7,378
親会社株主に帰属する当期純利益	5,095
総資産	100,540
純資産	75,843
時価総額(3/31時点)	53,125
従業員数	1,408人



本社(日本橋堀留町)





*1.この他に持分法適用の関連会社「新日本建販株」(出資比率15.7%)があります。
2.下線の引いてある会社は製造会社となります。



野外パワーソースのパイオニアとして、エンジン発電機、溶接機、コンプレッサなどの製品を日本と世界150カ国以上の国と地域に提供

エンジン溶接機



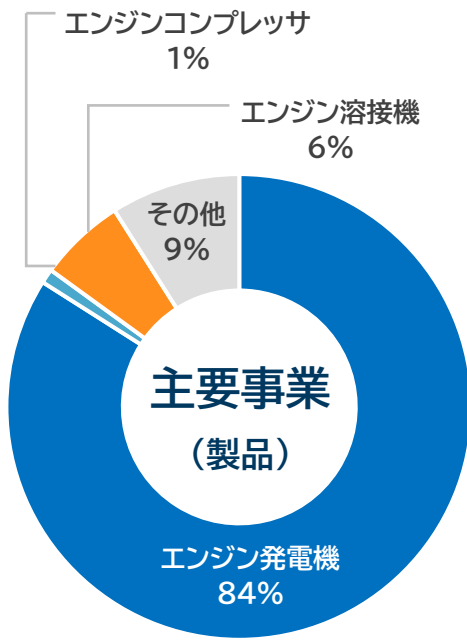
- 特徴**
 - 屋外で使用されるエンジン駆動の溶接機
- 使用用途**
 - 配管工事、橋梁、パイプラインなど、鉄材の溶接に使用

エンジンコンプレッサ



- 特徴**
 - 気体を圧縮して、圧縮空気を生み出す。
 - 電源の確保が必要ないため、あらゆる場所でエアーツールを使用することが可能
- 使用用途**
 - 削岩機、地盤改良用機械
 - コンクリート吹付工などに使用

商号	デンヨー株式会社 Denyo Co.,Ltd.
創立	1948年7月
従業員数(連結)	596名(1,408名)2024年3月末現在



エンジン発電機



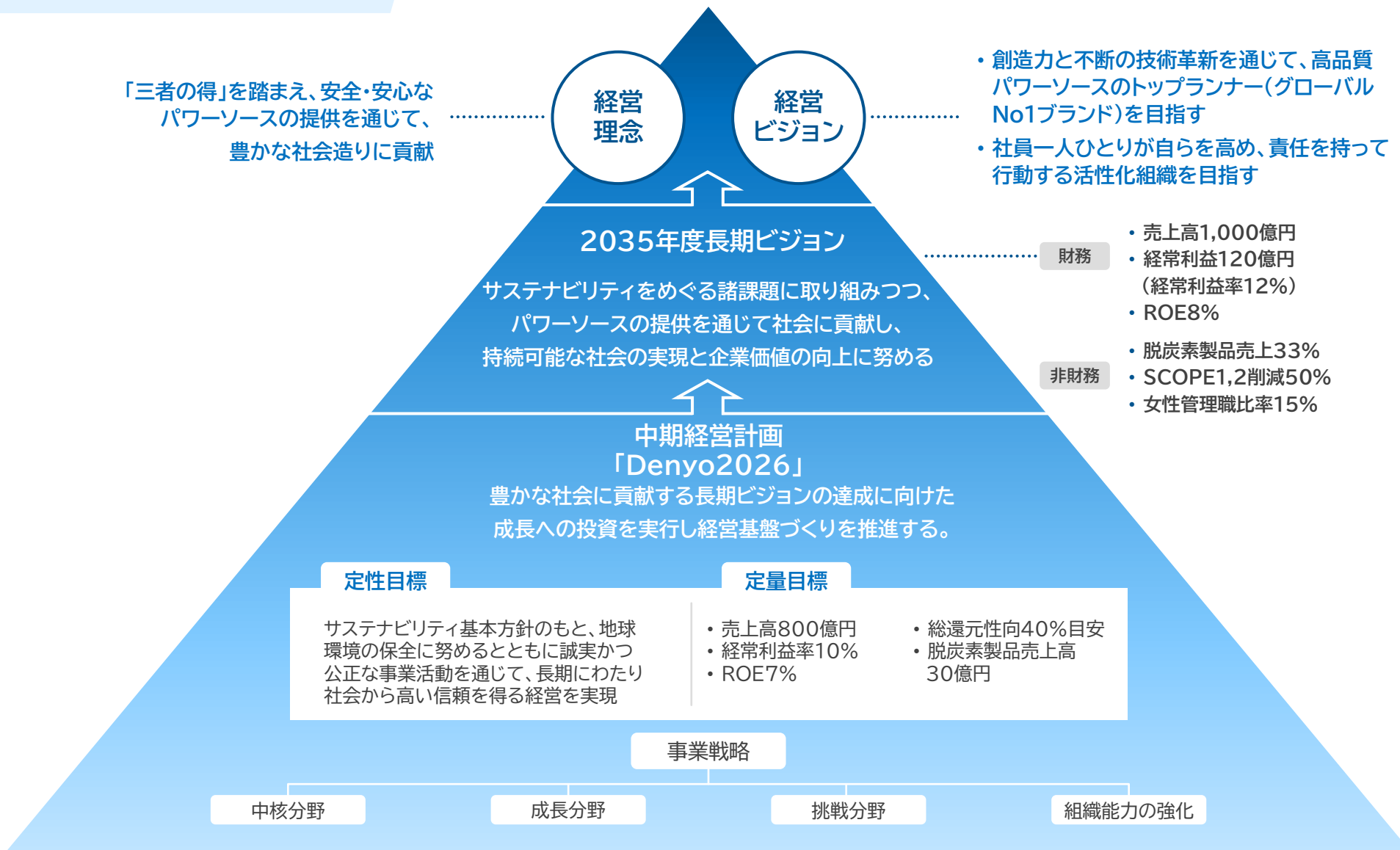
● 可搬形発電機

- 特徴**
 - トラックで運搬可能な発電機で、「移動可能な発電所」として、任意の場所で良質な電気を安定的に供給
 - 1kVA～1100kVAまで幅広いラインナップ
- 使用用途**
 - 土木・建設・港湾など工事現場
 - 屋外イベント
 - TV中継車など多種多様な現場で使用

● 定置形発電機

- 特徴**
 - 建物の屋上や地下などに据付けられる常用・非常用発電機
 - 主に停電時のバックアップ電源として使用される非常用発電機を製造・販売
- 使用用途**
 - 防災用発電機
 - デパートやホテルなど不特定多数の人々が集まる建築物に設置され、スプリンクラーなどの消防設備のバックアップ電源として使用
 - 一般停電用発電機
 - オフィスビル、工場や病院などに設置され、電気機器のバックアップ電源として使用

2035年度長期ビジョン新設



デンヨーは、地球環境問題を経営の重要な課題の一つとして位置付け、カーボンニュートラルへ向けた取り組みを積極的に推進してまいります。地球温暖化防止に向けたCO2排出量の削減や大気汚染防止のための一つとして、燃料電池をはじめとする水素社会への取り組みが有効であると考えています。

水素混焼発電機

- 販売を開始し、初号機をコマツ小山工場に納品
- 燃料に水素を最大 50%混合した発電が可能
- 軽油のみを燃料とする場合と比較してCO2の発生を最大50%削減
- コマツと株式会社日立製作所の技術供与により製品化に成功
- 水素サプライチェーンを構築するためのキープロダクトとして拡販

想定用途: 副生水素を活用した自家消費、停電対策用電源 等



コマツ 小山工場に導入した水素混焼発電機

■本発電機の仕様

発電出力	250kW
出力電圧	200/400V
周波数	50Hz
水素燃料消費量	115Nm ³ /h(50%混焼時)
軽油燃料消費量	34L/h(50%混焼時)
発電効率	35~40%
水素混焼率範囲	0%~50%(軽油のみでも運転可能)



量産型 燃料電池式可搬形発電装置

- 量産型の開発着手
- FCスタック、エアコンプレッサ、水素循環ポンプなどパッケージ化
- 実証試験機で得られた知見をもとに、小型軽量化を目指す

想定用途：土木・建設工事、災害発生時の生活電源、テレビ中継や各種イベント等



水素専焼発電機

- 水素のみを燃料としCO2を排出しない
- ボリュームゾーンである45kVAクラスの開発から着手
- 2025年以降の市場投入を目指す

想定用途：土木・建設・港湾工事、テレビ中継や各種イベント、レジャー 等

モバイルバッテリー搭載LED投光機



想定用途：夜間工事、イベント 等

- 騒音やCO2を排出しない
- 着脱できるカートリッジ式のリチウムイオンバッテリーを使用
- 長時間運転可能

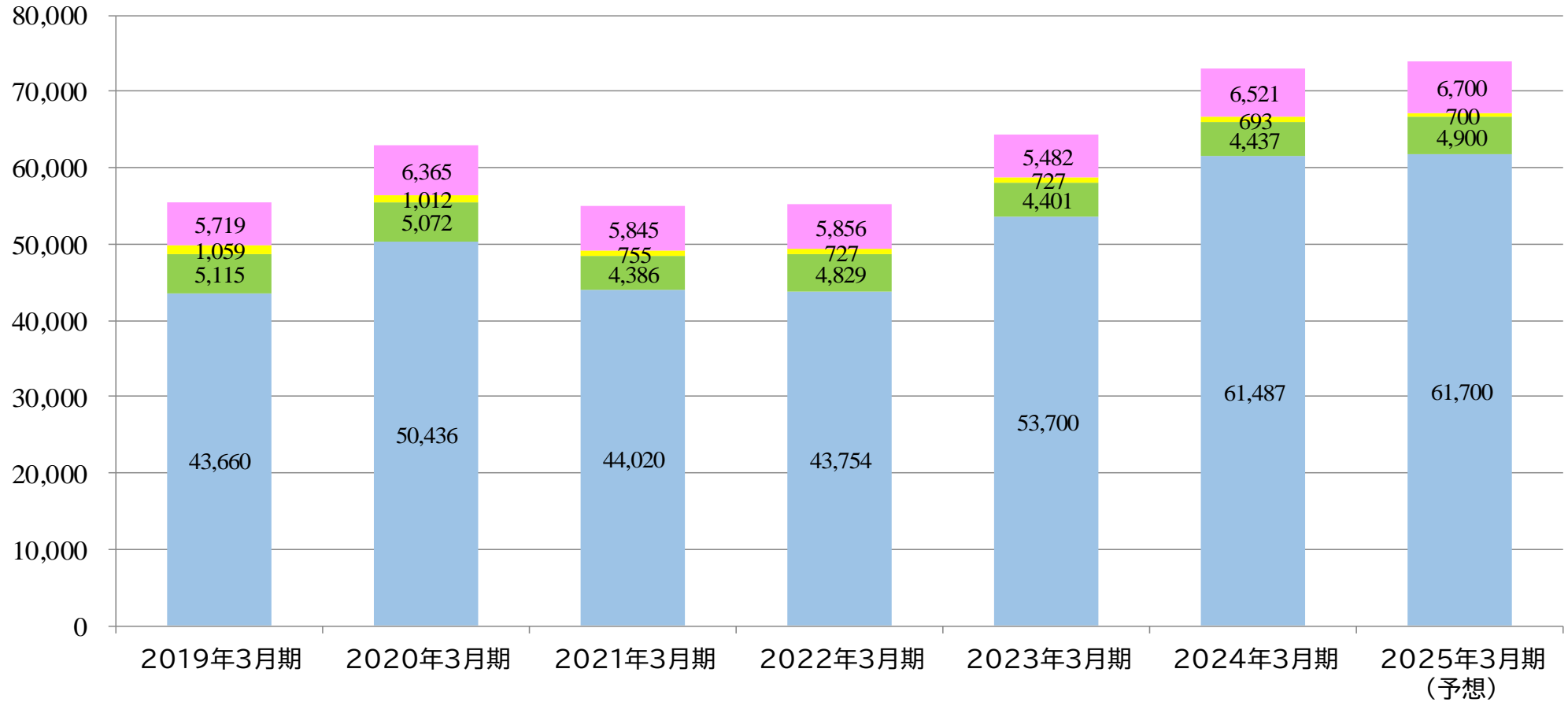
背負式バッテリー溶接機 WELZACK



想定用途：階段や狭小部分での補修作業 等

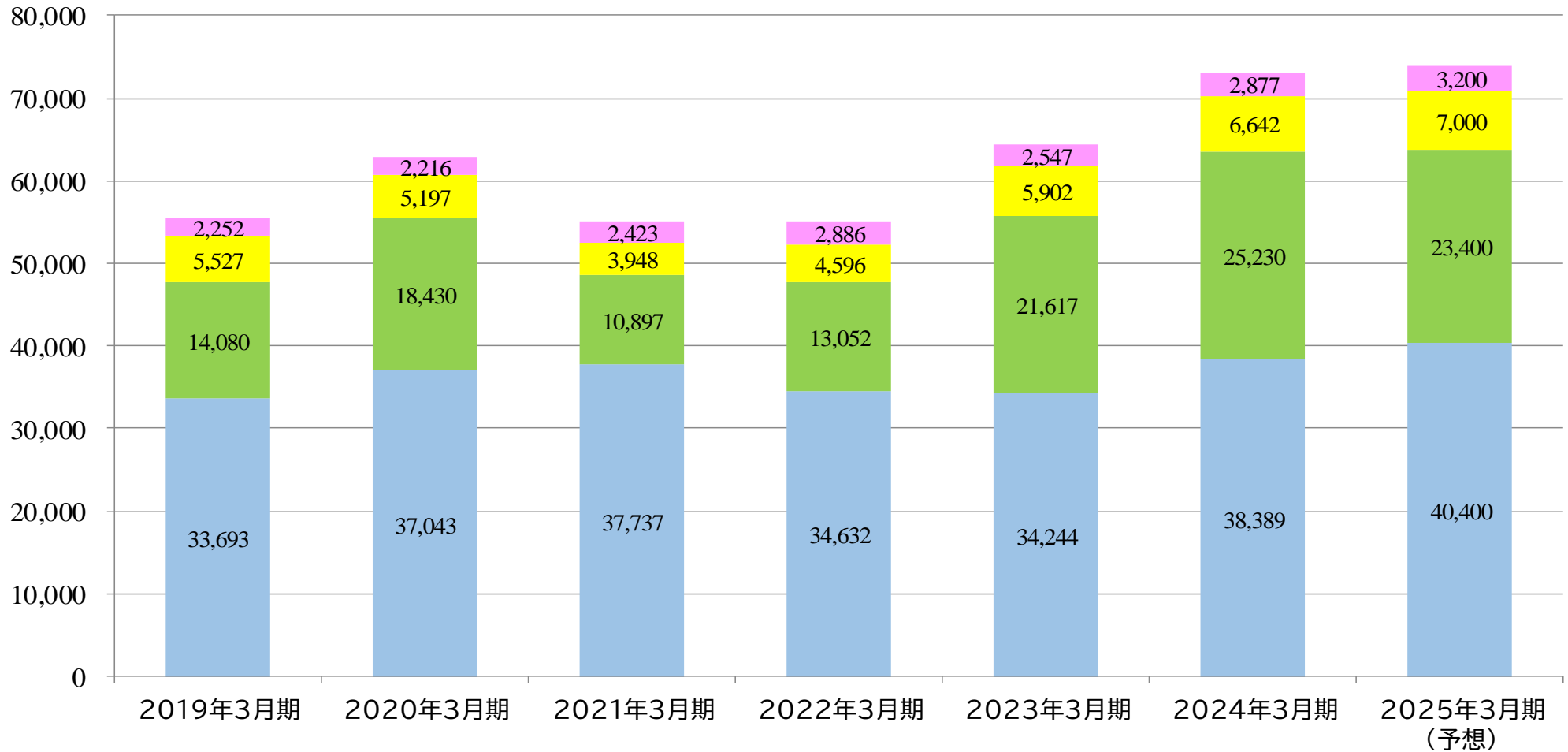
製品別売上

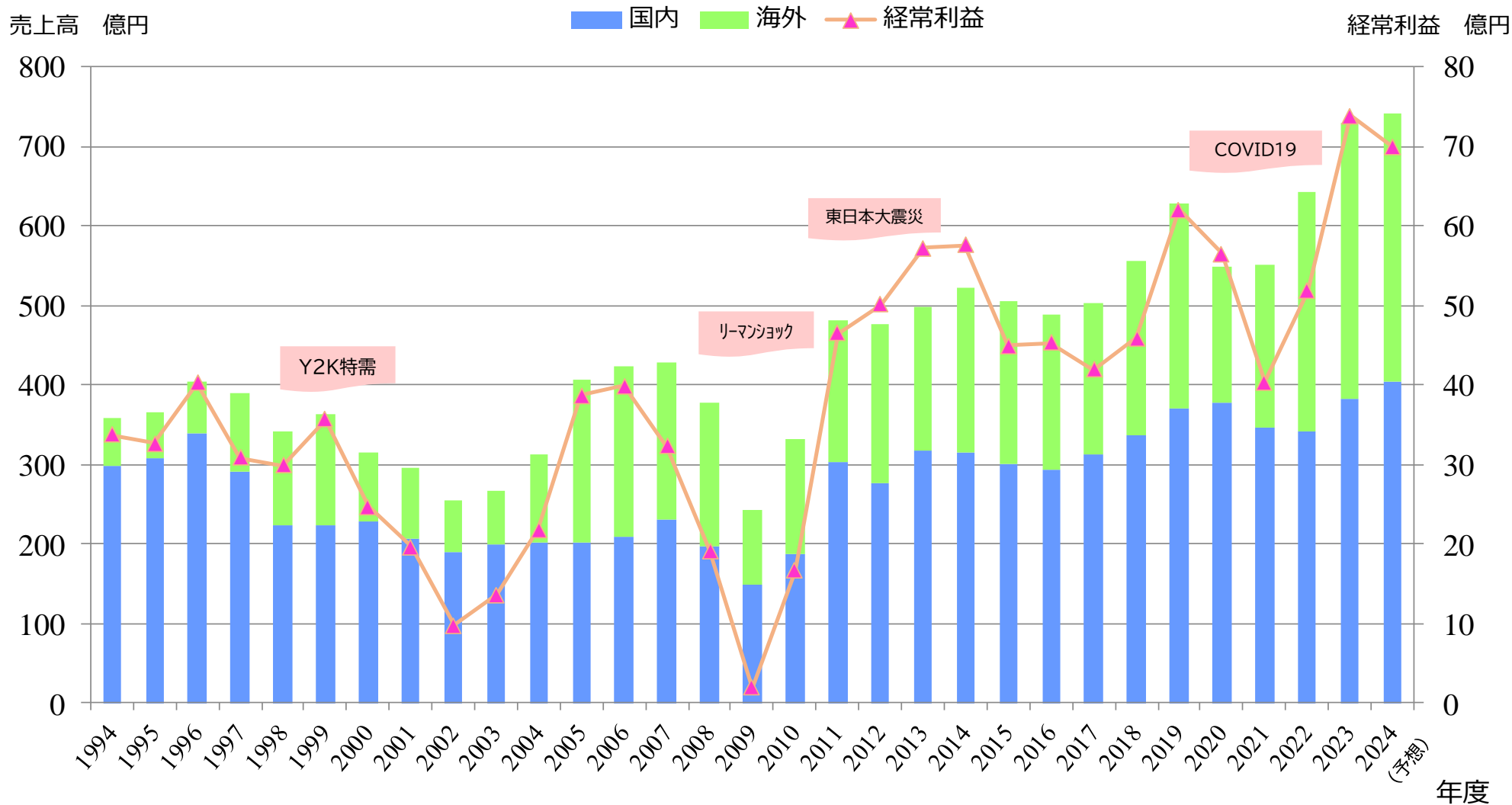
■ 発電機 ■ 溶接機 ■ コンプレッサ ■ その他



地域別売上

■ 国内 ■ アメリカ ■ アジア ■ 欧州他





壁を越える、原動力。

Denyo